

船舶事故等調査報告書

平成22年1月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009函第61号	
事故等種類	浸水	
発生日時	平成21年9月25日 21時30分ごろ	
発生場所	北海道函館港西副防波堤灯台から真方位141° 1,175m付近 (概位 北緯41° 47.2′ 東経140° 42.5′)	
事故等調査の経過	平成21年10月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 漁船<sup>りょうゆう</sup> 漁有、4.83トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 HK3-122269（漁船登録番号）、個人所有</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 機関及び航海計器濡損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、いか釣り漁の目的で、函館港海岸町物揚場付近の船だまりを出航し、3～4ノットの速力で函館港内を航行中、平成21年9月25日21時30分ごろ、船長が機関音の異常を感じて機関室を覗いたところ、浸水を発見した。</p> <p>本船は、自力で岸壁沿いに帰航中、航行を断念して港内の人工島に係留したが、翌朝、転覆した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：波は穏やか</p>	
その他の事項	<p>船長は、事故の約3ヶ月前に主機冷却海水船底弁（以下「船底弁」という。）のホースバンドの触手点検を行ったが、ホースバンドの締付具合を確認しておらず、事故後本船を引き揚げた際、船底弁のゴム製管継手が外れてホースバンドが紛失していることに気付いた。</p> <p>船長は、発航前に主機の潤滑油量とビルジの点検を行った際、機関室内の浸水は認めなかった。</p> <p>本船は、船底弁の開放点検が行われていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、航行中、船底弁からゴム製管継手が外れたことにより、海水が機関室内に浸入したものと考えられる。</p> <p>本船は、船底弁の適切な点検整備が行われていなかったものと考えられる。</p> <p>船底弁ゴム製管継手のホースバンドに緩みがな いか、適宜、点検していれば、本事故の発生を防止 できた可能性があると考えられる。</p>
原因	本事故は、夜間、本船が函館港内を航行中、船底弁のゴム製管継手ホー	

	スバンドが緩んで、同管継手が外れたため、海水が機関室内に浸入したことにより発生したものと考えられる。
--	--